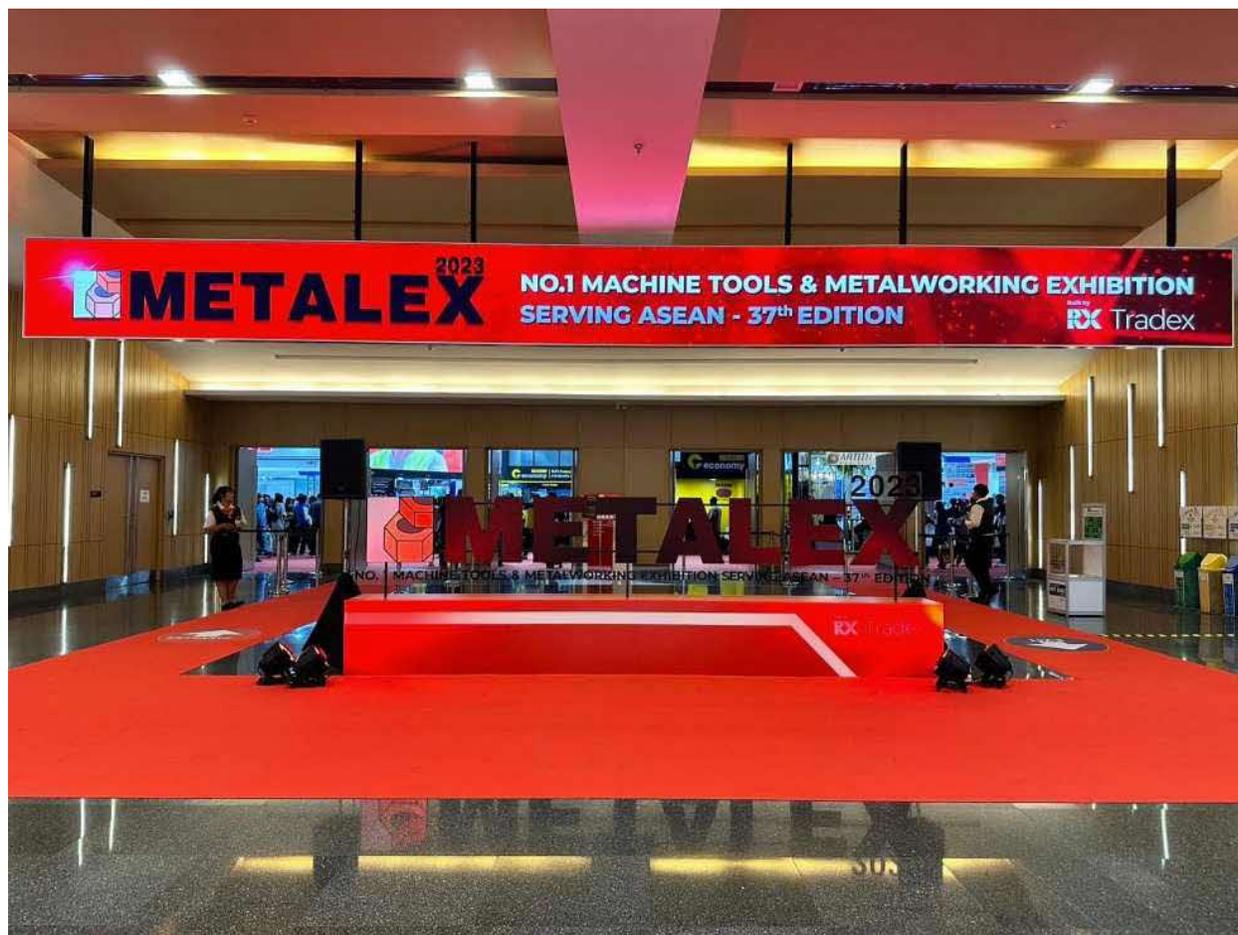


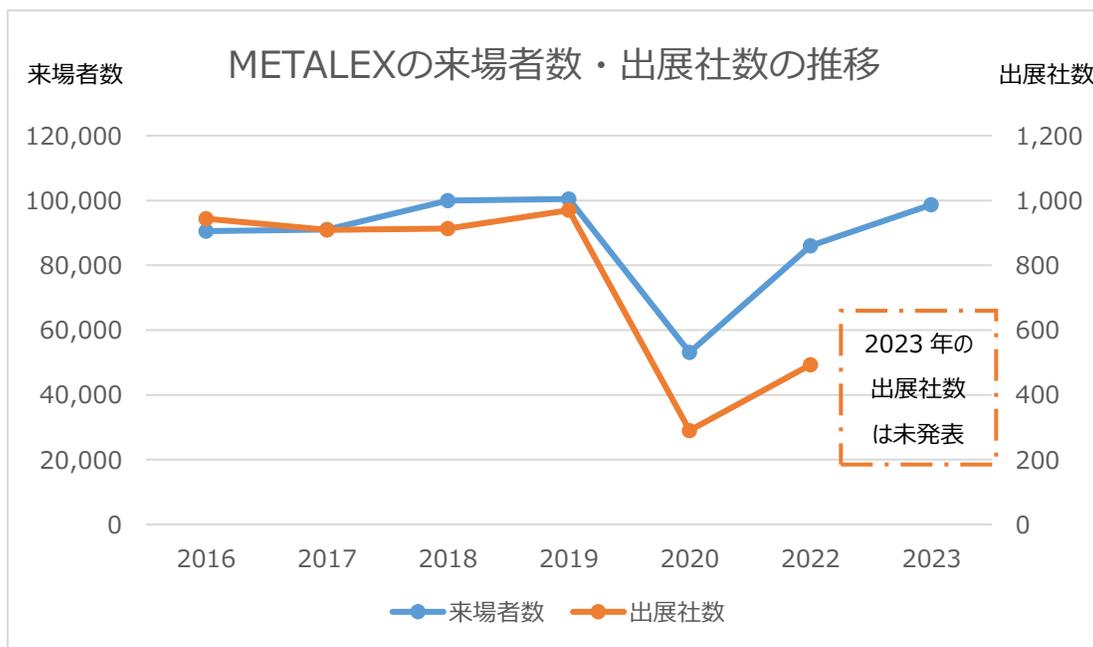
□ ■ METALEX 2023 ■ □

～コロナからの回復基調が見えた ASEAN 最大規模の製造業展示会～



こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのグラフです。

ASEAN 域内で最大の自動車生産台数を誇るタイは、域内でも屈指の工業国であり、多くの日系企業が進出している集積地でもあります。そんなタイで開催される METALEX は、ASEAN 最大規模の工作機械・金属加工技術関連の展示会であり、毎回多くの出展社・来場者でにぎわいます。37 回目となる今年は 11 月 22 日～25 日の日程で開催されました。2019 年の開催時には初めて 10 万人を越す来場者を記録しましたが、翌年 2020 年はコロナの影響により規模を縮小しての開催、2021 年は中止となっていました。コロナによる規制が解除されてから初めての開催となった昨年の入場者数は 2020 年と比べて少し回復しましたが、コロナ前の水準まではまだ届かず、出展社数もコロナ前の半分程度に留まりました。



コロナ禍に進んだ「ニューノーマル（新常态）」の流れの中で、展示会もバーチャルで開催されるようになり、METALEX においても今後はリアル開催の規模が縮小してしまうのではないかと筆者は心配しましたが、今年の入場者数は 98,686 人とわずかに 10 万人には届かなかったものの、コロナ前の水準まで回復しました。出展社数についてはまだ主催者から発表がないものの、展示スペースが昨年より拡大されてもおおホール内に収まりきらず、会場外の通路スペースにもブースが設置されるほどの盛況ぶりでした。



通路まで拡大された展示スペース

日系企業の出展は、JETRO パビリオンに 30 社が参加した他、東京都中小企業振興公社（12 社）、長野県パビリオン

（4 社）、群馬県高崎市パビリオン（13 社）など、計 174 社が出展しました。日本以外では中国、台湾、韓国などの各国のパビリオンが目立っていました。特に中国の企業は中国本土からの出展よりも、在タイや在ベトナムの中国企業としての出展が数多く見られました。

37 回目となる今回の METALEX では「The Innovators」というテーマが掲げられ、現代において競争力を生み出すために、各事業者に対して革新的な技術を追い求める姿勢が求められています。タイ工業省のナタポン次官は、今後もサプライチェーン全体で効率的な生産体制を確保するため、自動機械やロボットの導

入、リアルタイムで生産管理をするデジタル技術の導入などを促進していく方針を明らかにしました。そして、METALEX2023 がすべての出展社、来場者にとってチャンスとなり、この場で展示された技術、知識を活かすことによりタイの製造業がより発展することを確信する、と述べました。また、会期中には会場内で 41 の様々なテーマによるセミナーやフォーラムが開催され、AI や IoT の活用や脱炭素、エネルギー使用の削減門内などについて活発に意見交換が行われました。

コロナショックから 3 年を掛けてコロナ前の開催規模まで回復した METALEX、来年の日程は 11 月 20 日～23 日の 4 日間と発表されました。来年は今年を上回る規模で開催されるのでしょうか？気になるところで

島根県では、タイ・ASEAN 市場への展開を支援する、島根・ビジネスサポート・オフィスを設置しています。現地の規制等の情報収集や市場調査、現地でのアテンド等様々なサポートが可能です。

ご関心があれば下記までご連絡ください。

〔しまね・ビジネスサポート・オフィス〕

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/enterprise/shien/kaigai/support_office.html

〔問い合わせ先〕

島根県しまねブランド推進課海外展開支援室

TEL : 0852-22-5303 (直通)

E-mail : kaigai-tenkai@pref.shimane.lg.jp

□ ■ 島根県企業 5 社が参加！環境関連ビジネスマッチングイベントレポート ■ □

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのバンブーです。

島根県しまねブランド推進課海外展開支援室は、MOU を締結しているタイ国立キングモンクット工科大学 KX センターと連携し、島根県企業のタイ市場への展開を目的に、2023 年 11 月 6 日にバンコク市内で環境をテーマにしたビジネスマッチングイベントを実施しました。

この記事では同イベントについてレポートをいたします。



島根県は 2014 年に島根ビジネスサポート・オフィスをバンコクに開設、2020 年より現地駐在員として、タイ工業省ジャパンデスクへ県職員の派遣を開始しました。

そしてその後、2021 年 11 月に島根県内企業のタイ・ASEAN 市場獲得を目指し、タイ国立キングモンクット工科大学 KX センターと連携協定を結び、ビジネスマッチングプロジェクトの実施を開始しました。

タイ国立キングモンクット工科大学は、「タイの科学の父」と仰がれるラーマ 4 世(モンクット王)の名を冠し、1960 年に創立されたタイトップクラスの工科大学です。学生数は約 1 万 4400 人で、特に IT、生命工学、環境分野に強いです。その大学付属機関である KX (Knowledge Xchange) センターは産学官連携の支援機関であり、ビジネスマッチングや共同研究、資金支援、人材育成をワンストップで行っています。

今回が 2 回目の開催となる本イベントですが、第 1 回は 2022 年 2 月に、人工知能 (AI) 及び Internet of Things (IoT) をテーマに実施しました。今回は環境をテーマにしたの開催となりました。



この度の環境関連分野をテーマとしたビジネスマッチングプロジェクトの企画は、タイ政府が産業高度化を目指し、「バイオ・循環型・グリーン（BCG）経済モデル」を打ち出し、これを国の主要経済基盤にするという政策を掲げていることに起因します。

【参加した島根県企業】

企業名	出展製品
C.C. KENDENSHA Co., Ltd. (現地合併企業)	汚泥濃縮・固液分離装置スリットセーバー
株式会社ミライエ	1) 堆肥化装置イージージェット 2) 脱臭装置ミライエ生物脱臭システム
松江土建株式会社	気体を水に溶し込む気液溶解装置アクアミキサー
株式会社ひろせプロダクト (現地進出済み)	木・竹製品
株式会社まつえペイント	建物長期保護塗料アミコート

イベントの前には、KXセンターと島根県担当者が県内参加企業にマッチング先や展開を希望する製品の詳細についてヒアリングしました。そのヒアリングした内容を元に、KXセンターで協業の可能性のあるタイ企業に声をかけ、島根県企業の製品を紹介しました。その結果、多くのタイ企業がビジネスマッチングイベントに参加し、更にはいくつかの事前オンライン商談が実施され、参加企業様にタイ市場を理解いただく機会となりました。

【イベントのハイライト】

1. **各社のプレゼンテーション**：島根県からは上記の5社が参加し、このうち、C.C. KENDENSHA様、ひろせプロダクト様、まつえペイント様は会場から、残りの2社はオンラインで、企業の概要と製品についてプレゼンテーションをしていただきました。ひろせプロダクト様の代表者とまつえペイント様は、このイベントのためにバンコクへ渡航されました。



2. **展示ブース**：イベント会場には製品を紹介する展示ブースが設けられ、参加企業の皆様はブースを訪れた来場者と情報交換や、商談を行いました。企業様によっては製品サンプルを展示され、来場者の皆様に実際に製品に触れていただくことで、より製品について理解をいただくことができました。企業5社のブースに加え、島根県ブースも設けられ、県内の観光地について案内をしました。



株式会社ひろせプロダクトのブース



株式会社まつえペイントのブース



C.C. KENDENSHA Co., Ltd.のブース



オンラインで参加された松江土建株式会社及び株式会社ミライエのブース

3. **マッチングセッション**：事前のヒアリングを元に、イベント当日以前に設定をした商談が、複数会場にて行われました。島根企業とタイ企業が、お互いの情報交換したり、ビジネスの機会について模索をするなど、活発な協議が行われました。



当日のイベント会場にはタイ企業関係者約85名が来場し、オンラインでは158人が参加しました。多数のタイ企業が島根県企業の製品に関心を持ち、イベント中に10組の商談を実施、イベント後もオンラインにて協業の可能性を協議しています。



【タイ国内の視察ツアー】

イベントの翌日に、バンコクへ渡航いただいたひろせプロダクト様とまつえペイント様の2社は、島根県企画により、バンコクから車で1時間程のパトゥムターニー県にあるタイランド・サイエンスパークへ訪問しました。



タイで初めてのサイエンスパークである、タイランド・サイエンスパーク (Thailand's Science Park) は、研究開発と技術集約ビジネスをサポートするための重要なインフラです。民間企業の技術革新開発と R&D 活動を推進するという目的に基づき 2002 年に設立されました。タイ企業に限らず、海外企業も支援しています。ここでは、業務概要のプレゼンテーションをいただき、エリア内にある設備及び研究室の視察を行いました。タイでビジネスパートナーを探したい場合、サイエンスパークからタイ企業を紹介していただくことが可能です。



午後は企業ごとに2グループに分かれ、それぞれ製品に関心のあるタイ企業へ訪問したり、現地の小売店や建設現場の見学など、現地の市場理解を深めるための視察を実施しました。



【最後に】

このイベントは、島根県企業が環境関連分野でのタイでの製品展開を模索する中で、現地のビジネスパートナーや市場へのアプローチを加速させる機会となりました。

島根県企業がタイ国内で視察を行い、現地の企業や需要に関する情報を得たことで、イベント参加前には想定をされていなかった業界との交流から、新たなビジネスの可能性が生まれています。

このイベントが、島根県企業とタイ市場の間に将来的なパートナーシップの礎となる関係が築かれるきっかけとなればと考えています。地域経済の活性化や相互の成長に貢献するこのような国際的なイベントは、日タイの双方にとって非常に有益なものであり、今後もさらなる協力や発展が期待されます。

□ ■ バンコク都心の最新スポット「エムスフィア」! ■ □

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの柴田です。

タイ観光といえば、ワット・ポー（涅槃仏寺）やワット・アルン（暁の寺）といった寺院やプーケットなどのビーチ、アユタヤにある遺跡群を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

バンコクには大型のショッピングモールが数多くあり、サイアム・パラゴン（Siam Paragon）やアイコン・サイアム（ICON Siam）などといったショッピングモールは、バンコクのランドマークとして観光客だけでなく地元タイ人の方も多く訪れる人気スポットとなっています。

今回はそんなバンコクに新しくオープンしたショッピングモール、「エムスフィア（EmSphere）」についてご紹介いたします。



【エムスフィア（EmSphere）とは】

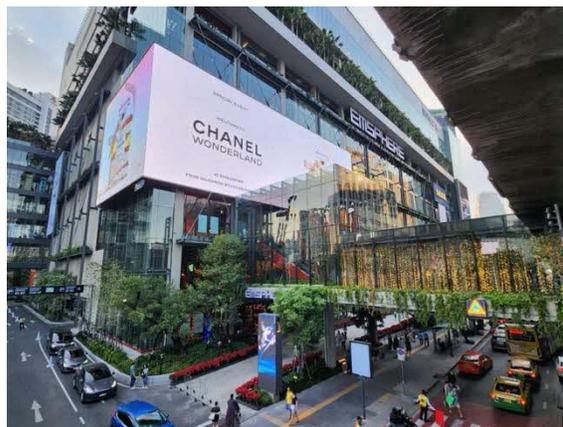


エムスフィアは、12月1日にスクンビットエリアに新しくオープンしました。エムスフィアは、タイ最大のモール運営会社の1つであり、前述のサイアム・パラゴンも運営しているザ・モールグループ（The Mall Group）が新たに手がけたショッピングモールで、地元メディアによると、同社はこのエムスフィアに、200億バーツ（約841億円）の投資をしています。

エムスフィアは地上10階建てで、総面積は20万㎡。このうち小売店のスペースが計6万㎡、飲食店のスペースが2万㎡で、さらにオフィスビル「EMタワー」も接続されています。さらに最上階6階には「UOB Live」というイベントホールも設けられており、6000人の観客を収容可能です。UOB Liveは現在まだオープンしていないものの、展示会やコンサート、スポーツイベントなど年100回ほどのイベント開催を見込んでおり、バンコク都心、BTS沿線で楽しむことができます。

【EM ディストリクト構想】

エムスフィアは、バンコクでも特に、現地で働く外国人や観光客の多く賑わいのあるスクンビットエリアにある、バンコクの高架鉄道 BTS プロンポン駅直結という絶好のロケーションに位置しています。特にこのプロンポン駅周辺は日本からの駐在員の方が多く居住するエリアであり、日系のスーパーマーケットや日本語通訳の常駐する病院があつたりと、日本人の生活拠点として人気が高いです。

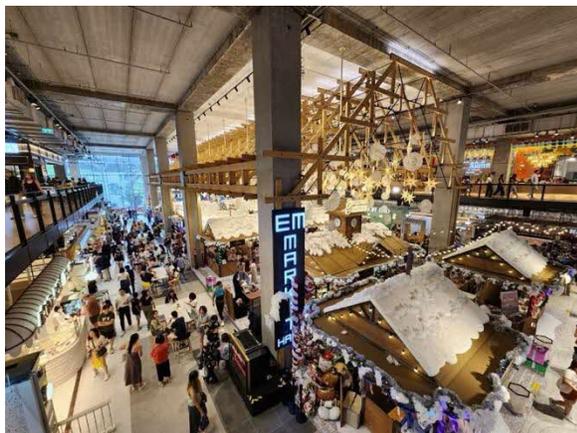


ザ・モール・グループはエムスフィアが開業する以前から、「エンポリアム」（1997 年開業）と「エムクオーティエ」（2015 年開業）の 2 つのショッピングモールを有しており、エムスフィアはザ・モール・グループが同エリアでオープンする 3 つ目のショッピングモールです。

この 3 つのショッピングモールとエンポリアム、エムスフィアの間に位置するベンジャシリ公園を含めた地域の開発は「EM ディストリクトプロジェクト」とされ、エムスフィアの開業をもって同構想が完成しました。EM ディストリクトの総面積は 65 万㎡、累計の投資額は 500 億バーツ（約 2095 億円）にのぼるといわれています。

これまで、バンコクのショッピングの中心といえば冒頭で述べた「サイアム・パラゴン」や「サイアム・ディスカバリー」、「セントラルワールド」などが連なる BTS サイアム駅周辺というイメージでした。ですが、完成した EM ディストリクトは、このサイアムエリアに並ぶ商業エリアとして、今後より多くの人を呼び込むエリアとなることが期待されています。

【エムスフィアの魅力】



3 つの大型ショッピングモールが立ち並ぶこの EM ディストリクトですが、他の 2 つのモールがプレミアム路線であるのに対し、エムスフィアはそこから少し価格帯を下げたモールに位置づけられます。プロンポン駅周辺は、駐在員とその家族やタイ人の富裕層が暮らすエリアであり、エンポリア

ムとエムクオーティエのターゲットもそういった客層をターゲットに据えています。その一方でエムスフィアは、タイ人の中間層もターゲットに、より広い層に足を運んでもらいやすい価格帯の設定となっています。

実際にショッピングモールに足を運びましたが、エンポリウムやエムクオーティエの外装やモール内は白を貴重とした高級な雰囲気ですが、エムスフィアはよりカラフルで賑やかな、親しみやすい印象を受けました。



こういったテナントが入居するかというのも開業前から注目を集めていましたが、その中でも特に話題となっていたのが、スウェーデンの家具大手「IKEA」です。タイでは2011年にバンコクの隣県であるサムットプラカーン県に1号店をオープン。その後、南部のプーケット県、バンコク北郊のノンタブリ県をオープンし、エムスフィアの店舗は4店目で、バンコクでは初の店舗となります。

エムスフィアの3階に入居しているIKEAですが、1万5000㎡の面積を誇り、東南アジアで初の都市型店舗でかつ規模は世界最大です。買い物を楽しむ他に、550席のレストランが併設されており、このレストランからはベンチャシリ公園の景色を楽しむことができます。オープン初日の12月1日にも同店に訪れる方が多く、一時入店のために列ができるなど大盛況でした。

また、同店では都市型店舗という利点を活かし、店舗から8km 圏内の利用者には、購入したその日のうちに商品を自宅へ配送するサービスを提供します。環境に配慮をし、この配送サービスには電動のトゥクトゥクが使用されます。



【最後に】

オープンしてから1週間ほど経ちますが、まだまだ連日大盛況。普段から渋滞のひどいスクンビット通りですが、エムスフィアがオープンしたことで付近の渋滞がさらに悪化しているというニュースも目にします。年末商戦もあり、かつUOB Liveのオープンも控えていますので、しばらくこの盛況が続くことが期待されます。

タイのショッピングモールは日本と雰囲気異なり、見ているだけでもおもしろいので、ぜひバンコクへお越しの際は立ち寄ってみてください。

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください

担当：神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,

Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

▶ タイ経済指標

項目	単位	2020	2021	2022	2023
GDP 成長率	前年比 (%)	-6.2	1.8	2.7	2.0 (9月)
人口*	千人	68,152	68,161	69,922	70,065 (9月)
労働者の数*	千人	39,451	38,631	40,143	40,311 (9月)
失業率**	%	1.62	1.94	1.32	1.03 (9月)
最低賃金* バンコク	バーツ/日	331	331	353	353
チョンブリー		336	336	354	354
アユタヤー		325	325	343	343
ラヨーン		335	335	354	354
賃金：全国製造業の平均	バーツ	13,562	13,506	14,305	14,422 (9月)
インフレ率**	前年比 (%)	-0.84	1.24	6.08	5.45 (4月)
中央銀行政策金利*	%	0.50	0.50	1.25	2.50 (9月)
普通貯金率**	%	0.31	0.25	0.28	0.40 (11月)
ローン金利 (MLR) **	%	5.60	5.42	5.50	6.80 (11月)
SET 指数*	1975年：100	1,449.3 5	1,657.62	1,668.66	1,380.18 (11月)
バーツ/100円**	バーツ	29.33	29.15	26.78	24.87 (11月)
バーツ/米ドル**	バーツ	31.29	31.98	35.06	34.79 (11月)
円/米ドル**	円	106.8	109.8	131.38	149.83 (11月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	779,857	736,716	856,057	644,445 (10月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,501	1,572	1,554	1,664 (9月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	361.41	511.9	618.62	532.59 (9月)

*期末、**平均